

主 題：主イエスの証人

聖書箇所：ルカの福音書 24章41-53節

数日前の「日本経済新聞」の電子版にこんな記事が載っていました。「キリストの墓」というタイトルでした。「ゴルゴダの丘で十字架に架けられ刑死したはずのイエス・キリストは、実は、生き延びて日本に渡り、現在の青森県新郷村で亡くなった。」と。ここまで読むだけでも驚きますが、イエス・キリストが日本に伝来したという伝説に関して、レポーターはこのように言っています。「村には確かに思い当たるふしがいくつもあった。キリストが日本に渡来し、新郷村で生を全うしたという根拠は、昭和初期に茨城県の竹内家で見つかった古文書にある。それによると、21歳のキリストは第11代垂仁天皇の時代に能登半島に上陸し、越中の尊い人の弟子になって修行した。修行を終えたキリストは、33歳のときに日本を離れ、ユダヤの地に戻った。そこで彼は周囲の人たちに『神国日本』のすばらしさを語り告げたが、当然ながら、受け入れられず迫害された。だが、磔刑になったのは身代わりとなった弟のイスクリで、キリストは数人の弟子とともに密かに姿をくらました。そして、シベリヤを横断し、アラスカを経由して、現在の青森県八戸市に上陸して再来日を果たした。その後、新郷村に居を定め、106歳で天寿を全うした。」と。これが日本経済新聞の記事として挙がっていました。

私たちクリスチャンだけでなく、多くの人々はこれを読んで一笑に付されることでしょうか。しかし、ひとりでもこのようなたわ言を信じる人がいるなら、それは悲劇です。そして、確実に、サタンは高笑いをしていることでしょうか。だから、皆さん、私たちクリスチャンの責任は重大なのです。私たちには真理を伝えていくという大きな責任があります。そのことを主が望んでおられるし、いや、そのことを主が私たちに命じておられます。そのことを主があなたに命じておられます。

ですから、私たちが考えなければいけないことは、私たちはどのような真理を語り続けていくのかということです。どの真理を語ることを主が望んでおられるのか？そのことについて、今日、私たちはルカの福音書24章からみことばを学んでいきます。

主イエス・キリストが地上での働きをすべて終えられて天に凱旋される前に、このメッセージを主は弟子たちに語りました。そのことがこの24章に記されています。今日、私たちがこの箇所を通して教えられること、また、しっかり学んでおきたいことは、「主があなたに望んでおられるあなたが語るべきメッセージ、あなたが人々に伝え続けていく真理」です。44節から、今日は49節までしか見ることができませんが、このメッセージを通して、私たちは三つのことを教えられます。

- ・救われた私たちはいったいどのような者とされたのか？クリスチャンの本当の姿について、
- ・二つ目は、信仰者である私たちが語るべきメッセージについて、
- ・そのメッセージを語るあなたに与えられている「力」について、

★クリスチャンが語るべきメッセージ

A. クリスチャンの正体（姿） 47b、48節

イエスを信じたあなた、イエス・キリストの本当の弟子とされたあなた、あなたはいったいどのような人として生まれ変わったのか？どういふ人として今あなたは生きているのか？そのことがこのみことばに記されています。48節に「あなたがたは、これらのことの証人です。」とあります。「証人」ということばが記されています。ことばの通りこれは「証をする者、証言する者」です。また、辞書によれば、「自らの信仰の体験を話す人」と、そのような意味もあります。そうすると、確かに、多くの信仰者たちが自らに主が為されたすばらしいみわざを語り続けていました。まさに、主の証人として生きていました。

その一つの例は、たくさんの悪霊に憑かれていたひとりの人物、レギオンに憑かれていたとみことばは記していますが、そのことを思い出してください。主イエス・キリストが彼から悪霊を追い出すのですが、それが2千頭の豚に乗り移って、その豚はガリラヤ湖に流れ落ちてしまうという話です。ガリラヤ湖の東に当たるゲラサ人の地方とあります。この記事はマルコの福音書5章、ルカの福音書8章に書かれています。悪霊に憑かれた人が癒されました。彼は主のお伴をしたいと願います。イエスの後について、イエスに従っていきたいと願ったところ、主はこのように言われました。マルコ5：19「…あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」と。イエスが言われたことは、「神があなたにどんなにすばらしいみわざをしてくださったのか、そのことを語りなさい」でした。まさに、主イエス・キリストの証人として生きなさいと言われたのです。

難しい神学の話やせよと言われたのではありません。神学論争をしなさいと言われたのでもありません。今、神があなたに為されたみわざ、そして、そのすばらしいわざを為された主イエス・キリストのことを人々に語りなさいと言われたのです。

***主が私にどんな大きなこと、すばらしいことをしてくださったのかを証する**

これがイエスの証人の務めです。そして、ここにいるイエス・キリストを信じているあなたも同じ務めを主からいただいているのです。少なくとも、私たちが語るができるメッセージは、主が私を罪から救い出してくださった、主は私のすべての罪を赦し救いを与えてくださった、もし、あなたが救いに与っているなら、このメッセージを語るができるはずで、全世界の人々に。47b節に「エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」とある通りです。そのことを主はこのように命じておられるのです。この人物はそこを立ち去ります。20節「そこで、彼は立ち去り、イエスが自分にどんな大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。」と教えています。人々はみな驚いたのです。彼はイエスが言われた通り出て行って、イエスの証人としての働きを為し続けました。神学的な特別の訓練もなかったけれど、彼は主が為してくださったことを語り続けたのです。このような証し人を主はお喜びになり、お用いになるのです。私たちが考えなければいけないことは、クリスチャンなら私たちにも同じ責任、務めが与えられているということです。

B. 語るべきメッセージ 44-47節

確かに、私たちは主が何をしてくださったのかを語るのですが、私たちにはそれ以外にも語るべき真理があります。そのことが44節から教えられています、三つのことがあります。

1. 主イエスはだれなのか 44節

イエスが私にどんなことをしてくださったのかを語ることにとも、「イエスとはいったいだれなのか」を人々に伝えるのです。それが44節に書かれています。「さて、そこでイエスは言われた。「わたしはまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」「あなたが信じているイエスとはいったいだれですか？」と問われるとき、私たちはこのように言います。

***このイエス・キリストは約束の救世主である**

彼は突然生まれて来てキリスト教という宗教を開いたのではありません。彼は生まれて来て人々の勧めによって救世主だと主張したのではありません。彼の誕生も彼の十字架も彼の復活もすべて、聖書が預言したことでした。「モーセの律法と預言者と詩篇」という表現がされています。実は、旧約聖書にはこのような区分がされているのです。それを使ってイエスが言われたのは「旧約聖書全体がわたしについて語っている、旧約聖書全体が来られるべき救世主について教えている、そして、それがわたしであった。」ということです。

イエスは「イエスご自身が約束の救世主、約束の救い主であった」とここで人々に話されたのです。それが私たちのメッセージです。人類が待望していた救世主、人々が待ち焦がれていた救世主が約束通りにこの地上に来てくださった。イエスはいったいだれなのか？約束の救い主であると。

2. 主イエスは何を為されたか 45-46節

私たちが語る二つ目のことは、45、46節に教えられています。「イエスが何を為されたのか？」です。主イエス・キリストがいったい何を為されたのかを私たちは語るのです。特に、ここに二つのことが記されています。

1) 真理を悟る 45節

主は人々の心に働いて、彼らが真理を悟るように働いておられることが記されています。「:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、:46 こう言われた。」とあります。イエスご自身が聞いている人々の心に働いて悟りを与えたということです。私たち救いに与ったひとり一人は、なぜ、このすばらしい神の救いを理解することができたのでしょうか？聖書が教えることは、神が私たちのうちに働いて悟りを与えてくれたからです。私たちの周りの多くの人たちがそうであるように、私たちもかつては神の救いのことを聞いても、それがすばらしいものだとは思わなかったのです。イエス・キリストが十字架で私たちの罪の贖いを為してくださったと聞いても、何の感動もしなかった。無関心でした。その主のみわざと自分との関係が分かりませんでした。それを知ることもなかった。パウロが教えるように、「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」(1コリント2:14)。神の事を知るためには神の助けが必要なのです。ですから、少なくとも、私たちがこうして神の真理を知り、真理を受け入れているということは、すべて神の恵みのみわざです。ですから、私たちはそのことを感謝しなければなりません。

私たちはキリストの証し人として、一生懸命キリストのすばらしさを証するのですが、人々はそのメ

ッセージに耳を傾けてくれません。ちょうど、私たちがそうだったように…。どうすればいいのか？

***心の目が開かれるように祈ること**

私たちは心を開いてくださる主の前に祈りながら、彼らの心を主が開いてくださるように、そして、彼らがこのすばらしい真理を理解することができるように、そのことを祈り続けていくのです。もちろん、証をし続けることとともにします。そのように私たちが働きを為していくことを教えています。ルカ24：13-32には、イエスの復活の日にエルサレムからエマオに向かっていた二人の弟子のことが書かれています。31節に「それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。」とあり、使徒の働き16：14には「テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。」とある通りです。

2) 主イエスの十字架と復活 46節

もう一つ、46節に「こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、」、イエスは人の心を開いて悟りを与えてくださるだけでなく、イエス・キリストは十字架に架かって死に、三日後にその死からよみがえって来られたとあります。このメッセージを聞いていた弟子たちはどう思ったでしょう？彼らはそこにいました。弟子たちはイエス・キリストが十字架に磔にされて、そこで血を流して苦しんで息を引き取られた様子を見ていました。彼らは目撃者です。先の新聞の記事のように、あれは別の人物で、当のイエス・キリストはどこかに逃げてしまっていると、もしそうなら、イエスがこのようなことを話されたとき、彼らは「イエスさま、あなたの言われていることは事実ではありません。」と言うはずですが、でも、だれひとりそんなことを言っていない。

***そして、実際に、十字架で死に、よみがえられた**

私たちが聖書という神がくださったみことばによって知ることは、イエス・キリストは確かに十字架で処刑されたことです。あの十字架に架かっておられたのは紛れもなく主イエス・キリストご自身です。そして、その墓の中から肉体をもって三日後に敢然とよみがえって来られた、これが主イエス・キリストです。イエスはもうすでに十字架に架かる前から、この後自分に何が起こるのかを話しておられました。マタイ16：21にそのことが書かれています。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」(マタイ16：16)とそのように告白したペテロたちに対して、イエスが言われたのは「その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」でした。これから自分の身に何が起こるのかをイエスはちゃんと話しておられました。そして、ここでイエスは「わたしが語っていたことをわたしは実際に行なった。十字架に架かると言った、その通りわたしは十字架に架かった。わたしは三日後によみがえると言った、そして、約束通り、語っていた通りに死後三日目にわたしはよみがえって来た。」と言うのです。

イエスはこうして、弟子たちに対して主が為さったことを語りました。「あの十字架の死はあなたに対する神の怒り、神ののろいをあなたに代わって味わったのだ。」と。イエス・キリストのあの十字架は、神のひとり子があなたの上に置かれていたあなたの罪ゆえの神の怒りを、神ののろいを、あなたに代わって味わってくださった。あなたに代わってイエスがのろわれた者となってくださったのです。そして、イエス・キリストの肉体をもった死後三日目のよみがえりは、このお方こそがすべての罪を完全に永遠に赦すことができる救い主なる真の神であることを証明したのです。

ですから、私たちは何を語るのか？イエスが何を為されたのか？あの十字架で私の罪を負って、私に代わってのろわれた者となって、私が受けるべきさばきを受けてくださった。そして、その死から敢然とよみがえることによって、彼こそが真の救い主であることを明らかにされたのです。このことを主は私のために成してくださり、そして、あなたのためにも成してくださったと、そのことを私たちは語るのです。

3. 主イエスは何がお出来になるのか？ 47節

イエスはいったいだれなのか？イエスは何を為されたのか？三つ目に私たちが語るべきことは、では、主イエスは今何がお出来になるのかということです。約束の救世主であり、十字架で私たちの身代わりとなって死によみがえってくださった、そのお方は今何をすることができるのか？何が可能なのでしょうか？47節を見てください。「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」と記されています。この主ができることは？

***罪からの完全な救い**

それを信じるすべての人に主は「罪からの完全な救い」を与えてくださいます。だから、皆さんは罪赦されたと言って主の救いを喜んでいます。主の恵みによって救われた私たちはこの救いを失うとは信じていません。なぜなら、主が与えてくださった救いは完全だからです。しかも、永遠のものだからです。一度主の救いに与ったなら永遠に与っているのです。何度も言うように、主の救いに与っているの

なら…です。それだけの力をこのお方は持っておられるからです。

*その名によって

この「名」とはその人のすべてを指します。また、この「名」には「個人としての適切さを含んでいる」とも考えられています。つまり、「その名」と言うときに、イエスその人を見るだけでなく、この方には「私たち罪人の罪を完全に拭い取ることができる」というその適切さがある、そのことが可能なお方であるということです。ですから、この47節で言われていることは、主イエス・キリストは人々に救いを与えることができる、そのことが可能であるということです。イエスの贖いによって、この方だけが私たちをその罪から救うことができる、それにふさわしい方、それに適した方であると言うのです。

⇒「罪の赦しを得させる悔い改め」 = 「罪の赦しへの悔い改め」

さて、47節に「罪の赦しを得させる悔い改めが、」とあります。これを見ると「悔い改め」が救いをもたらすかのように取れます。非常に難しい箇所です。実は、この「罪の赦し」という句を見たときに、これは何箇所かに出て来ますが、同じように訳されてはいません。訳者は訳すのが難しかったと思います。イエスが実際にここで何を言われているのか？「その名によって、」、イエスによって「罪の赦しを得させる悔い改め」、つまり、「罪の赦しへの悔い改め」です。私たちはよく分かっていますが、悔い改めによって救いを得ることはありません。自分の罪を悔い改めて正しく歩んでいきたいと、それだけでは救われません。私たちは主イエス・キリストの成し遂げてくださった救いのみわざを信じる信仰によって救われるのです。ですから、悔い改めによって救いを得ることはないのですが、信じる信仰には「真の悔い改め」がなければならないのです。

何度も私たちが学んでいるように、イエスはすばらしい救いを備えてくださった、イエスを信じたなら私は天国へいける、それなら、喜んで信じましょう、今の生活はそのままにして…、神に逆らっているし罪の中を生きているけれど、救いを欲しいからイエスを信じますと…、それは聖書が教えている救いではありません。本当に、神の備えてくださった救いをいただくために、私たちは当然、心の中から「神さま、私は間違っていました。私はあなたの前を正しく歩んでいきたい。」という悔い改めがあって、その救いを心から喜んで受け入れるのです。そのことをイエスはここで話しておられるのです。

では、他の人たちの教えを見てみましょう。使徒の働き2章、ペンテコステのときのペテロのメッセージです。2：38「そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」。ペテロは、最初に罪が示されてそれぞれの心が神によって刺されて、私は罪深い者だ、神の前に大きな罪を犯していると示された彼らに対して、「主が言われたことは『悔い改めなさい。あなたの心を変えなさい。あなたが今まで生きて来たその間違った目的から正しい目的に変えなさい。罪から神へと人生の向きを変えなさい。』ということです。罪に汚れた自分の本当の姿を知ったあなたはそれを捨てて、主が備えてくださった完全な救いを心から受け入れなさい。」と言うのです。

今、こうしてペテロのメッセージを見ていますが、私たちがすでに学んで来たことを思い出しませんか？イエスが「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」(マタイ16：24)と言われたことを…。同じことです。かつての自分中心に生きていた自分を捨てると言うことです。そして、私たちは何があっても、この方が神であり、この方が私の創造主であり、この方が私のためにいのちを捨てて救いを備えてくださった救い主であり、この方が真の神であるから喜んでこの方に従って行こうとします。

「救い」と「悔い改め」を切り離すことはできません。そのことはイエスご自身が言われたし、ペテロもそのようにメッセージを語っています。ペテロがここで教えたことは、「悔い改めがなければ救いを得ることがない」です。そして、彼は「主によって救われたなら、— 主の前に心からの悔い改めをもって主が備えてくださった完全な救いを喜んで受け入れたときに救いをいただくのですが、— その救われたことをあなたはバプテスマをもって公に証をなさい。」と言っています。それがここでペテロが語ったメッセージでした。

⇒ 主の為してくださった救いのみわざを公に証することを命じた

この当時、水のバプテスマはヨハネのバプテスマによって人々には周知されていることでした。実は、マルコの福音書1：4に「バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。」とあります。ヨハネのバプテスマは人々に悔い改めを求めて水のバプテスマを施していました。この水のバプテスマは何を意味していたのか？それは、彼らが悔い改めたことが本心からのものなら、それをバプテスマをもって証しなさいということです。水のバプテスマによって救われるというメッセージをしていたのではありません。神があなたを救ってくださったのなら、それを公にしなさいと、ヨハネはあなたの悔い改めが本物ならそれをバプテスマをもって証しなさいと語っていました。

ですから、このペテロのメッセージを見たときに、バプテスマを受けるということは、自分の心の中にあるものを外に明らかにするということです。しかも、使徒2：38には「イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。」と記されています。なぜ、このことが言われているのでしょうか？バプテスマのヨハネはこのようには言いませんでした。しかし、イエス・キリストが十字架に架かって亡くなり、三日後によみがえった後、「主イエスの名によってバプテスマを授ける」ことが教えられているのです。

変わったのです。なぜ、変わったのか？この意味です。「主イエスの名によってバプテスマを受ける」ということは、「主イエス・キリストを公に告白する」という意味です。ですから、皆さんが水のバプテスマを受けられた時を思い出してください。あなたは水の中にどっぷりと浸りました。それは自分中心のかつての自分は死んだ、自分を捨てたのです。そして、水の中から出て来たときに、あなたはキリストとともによみがえる新しい人として、新しい歩みを始めることを象徴したのです。ですから、イエスを信じたときにあなたのうちに起こったことを形をもって現わしたのです。そのときに私たちは「主イエスの名によってバプテスマを受けるということは、私はイエス・キリストを私の主として、私の救い主として信じた。」ということを経験したのです。

だれひとり、心の中の様子を見ることはできません。だから、主が為してくださったすばらしいみわざを人々に分かる形で明らかにするのです。それがこの水のバプテスマであり、そのことをペテロは語ったのです。著名な聖書学者であるF・F・ブルースはこう言っています。「水のバプテスマは福音を信じ罪を悔い改めイエスを主と認められた人々が、霊のバプテスマを受けた神の新しい民の交わりに公に加えられたことの外的なしるしである。」と。

「イエス・キリストの名によって」とあるのは、主イエスを受け入れたことを明示することです。ですから、ペテロのメッセージは、バプテスマによって救われるということではなく、救われたことを公にするためにバプテスマを受けなさいということなのです。しかも、イエス・キリストを信じたのならあなたはイエス・キリストに従う者だから、「イエスは私の主です」と公に証するようにと、それがペテロが人々に命じたことでした。このように見ると、メッセージは何も変わりません。だれもが語ったメッセージは「罪を悔い改めて主が備えた救いをいただきなさい」です。ルカの福音書24章に戻って、

***エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる 47節**

今見たことは、イエスによって罪の赦し、救いが完全に備えられた。そして、人々はこのメッセージを人々に伝え続けていったのです。そのことが47節の後半に書かれています。「エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」と。その歴史がこの「使徒の働き」に記されているのです。後で少し触れますが、使徒1：15にはこのように書かれています。「そのころ、百二十名ほどの兄弟たちが集まっていたが、ペテロはその中に立ってこう言った。」と、この「百二十名ほどの兄弟たち」がこの働きを始めたのです。

イエスはここであなたが人々に語るメッセージを教えてくださいました。もちろん、あなたがどのように救われたのか？そのことを人々に証することができます。同時に、このイエスがだれなのかを話すべきであり、イエスが何を為されたのかを話すべきであり、そして、イエスは信じる人にどのようなことを為してくださったのかを語るべきです。「イエスは救ってくださる」ということを語るのです。そのことをみことばは教えました。そして、あなたが救われたのなら、そのことを人々が見える形で証しなさい、それがバプテスマであると、このメッセージを人々は伝え続けていったのです。

ですから、私たちもこのようにするべきです。自分の救いを人々に語り、イエスがだれなのか、イエスは何をされたのか、イエスは信じるすべての人に確実に救いを与えてくださる救い主であると、そのことを語り続けていくのです。すごいことは、人々はこのメッセージを携えてエルサレムから出て行ったということです。そして、私たちのところにも福音が届いたのです。ここで止まるのではなく、私たちはこの後を続けていかなければなりません。まだ、福音を知らない人たちは全世界にいます。この私たちの国にもたくさんいます。私たちはどこかで見つかった古文書に基づいて話をしていてはなりません。神が私たちのために与えてくださった神のおことばである聖書に基づいて私たちはこの働きをします。

C. あなたの力 49節

そして、同時に、この人々の証がここに記されています。彼らは見たのです、十字架に架かったイエスを！彼らは見たのです、そこからよみがえって来たイエスを！彼らは聞いたのです、この主イエス・キリストのメッセージを！そして、彼らはそれを実行したのです。私たちもそのメッセージによって救われた者として、そのメッセージを語り続けていくのです。信仰者の皆さん、あなたは証し人として生まれ変わったのです。語るべきメッセージが何かを教えてくださいました。それを実践するのですが、実践するに当たって、主は私たちにこのようなメッセージを与えてくれています。「あなたの力」です。

49節を見てください。「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。

あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

1. わたしの父の約束してくださったもの

ここでイエスは明らかに、聖霊なる神のことを言うておられますが、とても面白い表現を使っておられます。「わたしの父の約束してくださったもの」とあります。つまり、主イエス・キリストは「聖霊なる神は父なる神の約束であった」と言うのです。父なる神が聖霊を送ることを約束しておられたと言うのです。父なる神のご計画であったと。そして、送られて来る助け主に関しては、新改訳聖書ヨハネ14:16の欄外の脚注を見ると、そのギリシャ語の説明がされています。パラクレトスというギリシャ語です。そして、その意味が「援助のためにそばに呼ばれた者、とりなしてくれる人」と書かれています。パラクレトスというギリシャ語にはこのような意味があるという説明がされているのです。実は、新約聖書にはこの「パラクレトス」というギリシャ語は5回しか出て来ません。4回はヨハネの福音書です。もう1回は同じヨハネが書いた「ヨハネの手紙第一」の中に出て来ます。

ヨハネの福音書の4回はすべて、「助け主」と訳されています。

ヨハネ14:16「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」

// 14:26「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

// 15:26「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかします。」

// 16:7「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。」

Iヨハネ2:1には「弁護する方」と訳されています。「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。」、これは送られてくるこの「パラクレトス」はこのような働きをするということを明らかにしたのです。

この方、聖霊はあなたを助けてくれるのです。ということは、主はあなたの弱さを知っているということです。父なる神はあなたの弱さを知っているのです。神は「このように生きなさい。これがあなたの務めだ。」と言われた。私たちは「それは難し過ぎて私にはできません。」といろいろな言い訳をしますが、神は全部を知った上で、あなたに何が必要かを知った上で、あなたにその必要を備えてくれたのです。あなたのために「助け主」を送ってくれたのです。

少なくとも、このことを見るだけでも「できません」ということばは私たちの口から完全に消えるでしょう。なぜなら、神は「できる」と言われたからです。全能なるお方が「できる」と言われた以上、皆さん、「できる」のです。

2. わたしは…送ります

49節の今見たところの少し先を見ると、聖霊なる神をだれがあなたがたに送るのが書かれています。「さあ、わたしは、…あなたがたに送ります。」と、この主語は「わたし」です。すなわち、イエスが聖霊を送ると言っているのです。このように言えるのは、イエスご自身が神だからです。主イエスが神であられることの証明です。これは明らかに、イエスが人としてこの地上を歩んでおられたときと、天に凱旋された後とは違います。イエスが地上におられたときは人として歩んでおられました。ご自分の御力を使うことにおいて制限されていました。しかし、今はそれがすべて取り除かれたのです。イエスは言われます。「わたしが父なる神が約束していた聖霊をあなたがたに送る。」と。力強い主のおことばです。

3. いと高きところからの力

49節の後半に「あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」とあります。「力」がどこから来ているのか？その「力」の出所がどこかを言っているのです。天からです。「神の力」のことです。「着せられる」とはまさに「洋服を着る」と同じことばです。だから、主イエス・キリストが弟子たちに言われたことは「あなたがたはもうしばらくすると天からの衣を着る」ということです。何のためにですか？あなたがたに力を与えるため、あなたがたが主イエスの証人として働きを為していくためには力が必要だから、その力をわたしが与えると言うのです。

そして、皆さんもご存じのように、この後、人々は聖霊をいただくのです。ここの並行箇所は使徒の働き1章です。なぜなら、使徒の働きもルカの福音書も同一人物＝ルカが記しているからです。使徒1:8「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」と、聖霊をいただくことによって

あなたがたはこの力を自分のものとすることができると言うのです。そして、2：1からペンテコステのことが書かれています。イエス・キリストが復活されて50日目のことです。イエスが天に凱旋してから10日目のことです。約束されていた通りに聖霊が下って来ました。つまり、信仰者すべてに神の力が与えられたのです。

結論：

そして、その力をいただいた彼らはキリストの証人として出て行きます。

1) 主イエスの証人として

「使徒の働き」のいくつかの箇所を見ましょう。4章にはペテロのことが記されています。

ペテロ：ペテロたちがメッセージを語ると男だけで5千人ほどが信仰にはいった。その後、民の指導者、長老、学者たちはエルサレムに集まってペテロたちを尋問します。そこで彼らはこのように答えます。使徒4：20「私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」と。彼らは証人だからです。私が語っていることはだれかから聞いたことではない、根拠のあることだと言います。私は見たのです、あのイエスの十字架を。私は見たのです、肉体をもってよみがえって来られたイエス・キリストを。彼らはその証人としてこのメッセージを語り続けました。

パウロ：パウロはどうだったか？使徒22章を見てください。ご存じのように、パウロはダマスコに向かって途中に救いに与りました。ダマスコに行ったときに、アナニヤという一人の人物が彼のところを訪問して来ます。神からのメッセージとしてアナニヤがパウロに語ったメッセージが22：15に記されています。「あなたはその方のために、すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですから。」と。

先に、私たちは悪霊に憑かれた人物が主から「あなたの経験したことを語りなさい」と告げられ、そのことを為した様子を見ました。そして、約束されていたように、力をいただいた、つまり、聖霊をいただいたイエスの弟子たちはイエスの証人として、自分たちの見たこと聞いたことを語り続けたのです。ペテロもパウロも。ということは、私たちも同じ務めを神からいただいています。クリスチャンであるなら、どこに国に住もうと、どの人種であろうと、みな同じ務めをいただいています。私たちは主が為してくださったことを語るのです。主がいったいだれであるか、主が何を為し、そして、何をしてくださるのか、このすばらしい救いのメッセージを語り続けていくのです。

2) 主の力によって

そのためには間違いなく主の助けが必要です。先に見た通り、神が力を与えてくださいました。

使徒4：13＝「彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」

使徒9：22＝「しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」

(1) 力に満たされ続けること

使徒の働き2章1－3節には、聖霊なる神が下った様子が記されています。比喩的に語られていますが、その後4節に「すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。」とあります。これは聖霊のバプテスマのことではありません。救いのことでもありません。聖霊に満たされたのです。皆さんが主イエスを信じたときに皆さんは聖霊をいただきます。それを「聖霊のバプテスマ」と言います。これは人生で一回きりのことです。この4節で言われているのは、そのことではなく、信仰者が聖霊に満たされ続けることです。エペソ5：18には「また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」とあります。この「御霊に満たされなさい。」と使徒2：4の「聖霊に満たされ、」とは同じことばです。時制が違うだけです。

つまり、聖霊をいただいた皆さんがその力をもって歩み続けていくために必要なことは、その聖霊なる神にあなた自身が支配され続けることだということです。聖霊に満たされ続けていくことが必要だと。ですから、この後「使徒の働き」を見ていくと、人々は聖霊に満たされてすばらしい主の働きをしています。

4：8＝「そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。」

4：31＝「彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。」

13：9＝「しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、」

13：52＝「弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。」

6：3＝「そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。」

6 : 5 = 「この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、」

7 : 55 = 「しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、」

マタイ 10 : 20 = 「というのは、話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあつて話されるあなたがたの父の御霊だからです。」

大胆に主のことばを語り続けていったこと、そのような働きをして来たのは彼らが聖霊に満たされていたからです。ですから、私たちもそうです。常に、神の御霊に満たされ続けていくことが必要です。

(2) 力を信じ続けること

こうして神があなたに神の力を与えてくださったというその約束を話しても、ある人たちは自分のこととは信じられないのです。私は余りにも弱い者で何度もその約束を言われても、私は例外と思える、確かに、あの人には力がある、この人にもあるけれど、私は違う！と言います。そのような人がいたから、パウロはその力を徹底して教えようと思いました。エペソ 1 : 19 に「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」と書かれています。今、詳しい説明はできませんが、パウロはここで「力」と訳せる四つのギリシャ語を使っています。なぜか？それを聞いている人がだれひとり「私にはできません」と言うことがないためです。あなたにはもう神の全能の力が与えられている。あなたには神の力が与えられているということを繰り返して教えるのです。

パウロが教えたかったことは「あなたにはすごい力が与えられている」ということです。ですから、このエペソ 1 : 19 に「聖霊のために聖霊を与えてくださるよう祈りなさい」とか「力が与えられるよう祈りなさい」とは書かれていません。「主よ、どうぞ力を与えてください」、力はもう与えられているのです。問題は「力がないこと」ではありません。与えられている力をあなたが信じ切らないことです。どうしても、私たちは「できない」と思ってしまいます。そうするともう、神の約束自体が信じられないのです。

ですから、**皆さんへのアドバイス**です。

a) **神が言われたことを信じる**ことです。あなたは天から神の力をいただいています。その証拠にあなたのうちには聖霊がいると言います。それを信じることです。その力、ペテロがもっていた力を、パウロがもっていた力をあなたもいただいているということです。

b) **二つ目に、「できない」という不信仰な態度を捨てる**ことです。かつてはそうでした。しかし、私たちは自分を捨てたのです。神の言われることを信じなかった私たちが、そういう自分を捨てて神の言われることを信じる者として、新しい生き方を始めたのです。主の言われていることを信じることです。そして、皆さん、そういう人を神は喜ばれ、そういう人を神はお用いになるのです。

どんな経験があるか、どんな訓練を受けて来たか、そんなことはどうでもいいのです。神が求めておられる信仰者とは、神が言われたことをそのまま信じる信仰者です。そのような人を神は用いて来られたし、そのような人を今も用いるのです。そんな人がこの中にどれくらいいるでしょう？あなたはそんな信仰者ですか？

そして、主の約束を信じて働きを始めることです。どんなに知識を蓄えても何もしなければどうにもなりません。主はあなたに力を与え、「わたしはあなたに今日を与えた。だから、座っていないで出て行きなさい。」と言われます。人と会わないのなら救いのために祈ることです。その機会を探ることです。皆さんの家族の中にはまだ救われていない人がいます。だれひとり、彼らが地獄に行くことなど望んでいません。語らなければいけません。あなたは証人だから…。

そして、これまで何度も失敗して来た皆さん、失敗したらやり直せばいいのです。主の前に悔い改めてやり直せばいいのです。神はあなたの弱さも愚かさも知っておられます。だから、それゆえに、あなたにすばらしい完璧な助け主を送ってくださった。その方を信じて、「主よ、どうぞ私を使ってください。今日、私はあなたの証し人としてあなたのことを証していきたいから、私を使ってください。」と、そのようにして出て行くことです。そういう人を神は使ってください。あなたはそんな人でしょうか？もし、そうでなかったなら、今日からそんな人として歩んでください。神が言われていることを信じ、そのように生きることです。あつという間にその機会を失ってしまいます。主の証し人として生きることができるのは、この地上に生きている今だけです。天に上がったなら私たちは証し人として生きないのです。主を礼拝し続けます。でも、今、ここに置かれているということは、このときしか証し人として生きないからです。

証し人として歩んで来られた皆さん、いろいろなことがあつて今落ち込んでしまっているなら、このみことばがしっかりとあなたの力となつて、確信となつて、このように今から歩み出して行くことです。

主のみこころを為し続けていきましょう。それが主の望んでおられることだから…。

《考えましょう》

1. 「証し人」は何を語るのでしょうか？
2. 主イエスには罪を赦す力があります。それはどうしてでしょう？
3. 「心からの悔い改め」が、どうして救いには必要なのでしょうか？
4. あなたが証し人として生き続けるために、主は力を備えてくださいました。その力をいただきながら、証し人として歩み続けるためには、どうすればよいのでしょうか？